

やっぱり 看護が好き

鼎●談

訪問看護ステーションへの復帰
復職支援研修と復帰後のサポート体制について
訪問看護ステーション所長に聞く

Interview ● これからの看護

チーム力で療養の場に
安全・安心な看護を実現する

研修広場

平成26年度
再就職へのステップ 3日間研修
復職支援研修プログラムのご案内

看護職の就職応援フェア

木戸 恵子さん 株式会社ウッドイ訪問看護ステーションはーと代表取締役

チーム力で療養の場に 安全・安心な看護を実現する

「葛飾区で働く現役の訪問看護師の中で一番古い」と、笑いながら自己紹介する木戸恵子さん。訪問看護師になって12年目に「訪問看護ステーションはーと」を自ら立ち上げました。以来、療養の場に心と体が癒やされる看護を提供し続け、年間100人以上の看取りをするほか、地域住民の健康相談にも応じています。13年には「ホームホスピスはーとの家 金町」を、訪問看護師仲間と開設しました。チームとしての活動は、患者さんのケアや家族への支援の一層の充実につながっています。

「子育てをしながら、しかも自転車を通えるほど近くで仕事ができる。それだけの理由で訪問看護の世界に飛び込んだ」という木戸さん。1997年のことです。しかし、「すぐに責任感とやりがいを感じ、夢中になった」と当時を振り返ります。

「療養の場には、患者さんを愛情深く見守るご家族がいます。そして『今日は少しだけご飯を食べてください』といった小さな喜びが、日々の大きな苦勞をカバーしているのです。その中で『こういうときはどうしたらいいの』と相談されたり、『何かあったときには素早く駆け付けてくれるので安心』と感謝されたり。患者さんのみならず、直接ご家族と信頼関係が築けることは、病棟では味わえなかった、訪問看護の醍醐味」といいます。

最近では退院前カンファレンスに参加することも多くなりました。点滴や創の処置だけでなく、患者さんの生活全般をイメージして、居室の温度や湿度といった環境から、規則正しい生活などについてもチームで提案し、暮らしそのものの大切さを伝えています。また、退院にあたっては、予め自宅までのルートなどをたどって階段などの障害物を洗い出し、無理なく

クリアできるよう手配します。「患者さんが自信を取り戻して日常に戻れるよう、その方法を整えるのも訪問看護師の仕事」と木戸さんは考えています。

利用者は80～90代の高齢者を中心に、乳幼児から各年代にわたりますが、最近ががんの患者さんが増加しているといいます。

「看取り数が増えたのも、16人の訪問看護スタッフが24時間一生懸命支えてきた結果だと思っています。ご家族とつらさを共有することも多いですが、患者さんの最期の時を一緒に過ごさせていただけなのは幸せなことだと思えますし、とても大事なことを学ばせてもらっています」

一方、「ホームホスピスはーとの家 金町」は、最期のときを我が家のように過ごせるだけでなく、病院から在宅療養に切り替える際の中継点として、あるいは家族が不在の短期間といった、さまざまな利用のされ方を行っています。

入院中、病院の食事を全く受け付けなかった認知症の80歳女性が、退院して「はーとの家」で療養を始め、ご主人と食卓を囲むようになったところ、最初は食べさせてもらっていた食事を、2週間後には自ら食

卓に着いて食べるようになったというケースもあったそうです。

「食べられなかったら点滴するので大丈夫。でも、もう少しだけがんばってみようか」などと、訪問看護師が声をかけながら、ゆとりある接し方をしたことが良い方向に影響したのかもしれませんが。私たちのことを、何かあったら守ってくれる強い味方だと思っただけだと嬉しいですね」

「はーとの家」は、未経験の訪問看護師研修の場としても活用されています。

「訪問看護師になる自信がないという声をよく聞きます。でも、担当制であつても、全てを二人で判断してやっつけなければならぬというわけではありません。訪問看護では、看護師一人ひとりが得意分野を生かして、欠けている部分を互いに補い合い、ともに進むチーム力が大事なことを実感しています。これからも、チーム力で療養の場に安全・安心な看護を実現していきたいですね」



●プロフィール

木戸 恵子（きど けいこ）

東京慈恵会医科大学附属看護専門学校卒業後、同大学附属病院勤務。1997年都内医療法人の訪問看護ステーションに所長として勤務。2009年株式会社ウッドイを設立し「訪問看護ステーションはーと」を開設。13年「ホームホスピスはーとの家 金町」を訪問看護師仲間と開設。

研修広場

平成26年度 再就職へのステップ 3日間研修

●対象者…都内在住で就業を希望する離職中の看護職（ナースバンク登録が必要）

●1回定員…20人

●目的…看護の基本を振り返り、就業への意欲を高める
臨床現場で必要とされる看護基礎技術について再学習する

●開催日 平成26年6月17日（火）・18日（水）・19日（木）／3日間

●会場 ナースバンク立川

実習前の、採血・静脈注射の講義



人体模型を使った採血の実習



点滴ラインとシリンジポンプを使った静脈注射の実習



「ふれあいナースバンク」会場、施設の方と面談中



本研修は、働いていた頃のように朝から夕方までの、3日間連続した研修です。初日、不安でいっぱい表情が集まった研修生の皆さんでしたが、最終日の「3日間のまとめ」では、みんな明るい表情で研修に参加して感じたことを語ってくれました。全員の発言を載せた

いのですが、スペースの都合上、多かった感想を要約してお伝えします。

- ・復帰を思いながらも、プランクが長いことで不安が先に立ち、何も行動に移せなかったが、思い切って研修に参加したことで、一緒にがんばることができた仲間に出会えた。
- ・講義、実技とも、内容も講師も充実していた勉強になった。
- ・看護学生だった頃のこと、働いていた頃のことを思い出し、楽しかった。
- ・看護師が必要とされていることを実感し、復帰への意欲がわいた。
- ・「ふれあいナースバンク」で気軽に多くの施設の方と面談できてよかった。今後の就職活動に前向きになった。
- ・講義・実技の充実に加え、同じ目標に向かって進む看護師仲間との出会いがプランク

への不安を払拭し、復帰への大きな原動力になるようです。「一人で考えていると落ち込むばかりだった」との発言もありました。復帰を考えている方は、ぜひこの研修に参加してみてください。

今後の開催予定は、9／17（水）～19（金）、11／11（火）～13（木）、2／10（火）12（木）13（金）の3回です。

もう一度看護職として働いてみませんか！

●復職支援研修プログラムのご案内

1. 標準的な研修プログラムには、3種類（Ⅰ～Ⅲ型）のプログラム及び助産師コースがあります。
2. Ⅰ～Ⅲ型の研修コース終了後、さらに希望される方は、訪問看護ステーションコース、その他施設コースの研修が受講できます。

プログラムの種類	日数	主な内容
Ⅰ型	1日	講義をメインとするプログラムです。いずれ再就職したいと考えている方におすすめです。
Ⅱ型	5日	Ⅰ型に加え、模型や実際の医療機器を使用し、演習をメインとするプログラムです。基本的技術の確認などができるので、再就業に向けて少しずつ準備をしたい方におすすめです。
Ⅲ型	7日	Ⅱ型に加え、病棟における実習をメインとするプログラムです。基本的技術の確認と、臨床での働きを少しずつ取り戻したいと考えている方、近い将来の再就業を希望する方におすすめです。 ★助産師の研修もあります。
☆訪問看護ステーションコース ☆その他施設での研修	2～5日	病院での1日、5日、7日研修を修了後、訪問看護ステーション研修、さらに診療所・介護施設・福祉施設などでの研修を希望する方のためのプログラムです。 ライフスタイルに合わせた職場選択を可能にします。

詳細は東京都ナースプラザにお問い合わせください。

井上 よし子 所長

〔社会医療法人社団健全会にしき訪問看護ステーション〕

阿部 章子 所長

〔医療法人社団仁和会徳持訪問看護ステーション〕

須釜 なつみ 所長 〈司会〉

〔東京都ナースプラザ〕

患者さんやご家族との共有、看護師間の共有を通して、やりがいや喜びを直接感じられるのが訪問看護の魅力です。復職支援研修で、それを実感してみませんか。復帰後のサポート体制も充実してきました。

これまでの経験や不安を率直に伝えて

須釜 東京都ナースプラザで研修を受けて再就職を目指す方の動向を見ていますと、訪問看護ステーションを再就職先に考える方が少しずつ増えています。そこで今回は、訪問看護ステーションの所長さんお二方においでいただきました。復職支援研修の「訪問看護ステーションコース」をお願いしており、それが再就職に直結して、両施設とも復帰された方が現在働いています。

両施設については「施設の紹介」も参照いただくとして、スタッフの人数構成など、ご自身のステーションの状況を簡単に教えてください。



井上所長

井上 にしき訪問看護ステーション（以下、にしき）は常勤

6名、非常勤8名で、うち1名は現在産休に入っています。非常勤のスタッフはほぼ全員が未就学児や小学生のお子さんの子育て中ですので、どうして

鼎談

やっぱり看護が好き

訪問看護ステーションへの復帰 復職支援研修と復帰後のサポート体制に ついて訪問看護ステーション所長に聞く

も、お子さんが急に熱を出したりということがあつて、勤務者が欠けることがありますが、そこは皆でカバーしています。常勤の6人は年齢が一回りくらい上で子どもから手が離れた年代です。十数名おられますので、とても賑やかな職場です。

阿部 徳持訪問看護ステーション（以下、徳持）は、にしきさんに比べると小規模で、看護師は私を含めて常勤2名と非常勤3名という構成です。常勤の1人は4月半ばに、それまでの常勤スタッフが結婚に伴う引越で通えなくなつて退職したのと入れ替わるかたちで入ってきました。看護師は5人とも既婚者で、やはりほとんどが子育てしながら家庭生活と両立しているという状況です。小さいステーションですが、その分落ち着いた環境でじっくり働いていただけたらと思います。皆さん一度就職すると比較的長く勤めてくださいます。

須釜 復職支援研修の研修生にはどんな実習をしてもらっていますか。そして、受け入れるときは、どんな点に注目し、どんな配慮が必要とお考えでしょうか。

井上 注目するのは、まず年齢ですね。子育て中か、どのくらい離職しているかということにも注目します。そして、たとえば子育て中の方でしたら子育て中のスタッフ、年齢が高い方は年齢の近いスタッフと、なるべく研修生と近い状況の中で働いてくれるスタッフに同行してもらいます。復職するにあ

たつて感じる心配や不安は個々の方ごとに異なっていると思いますので。スタッフには「実際に自分が働いてみてどうかという話をしてあげてね」と協力してもらっています。これまでどんな経験をしてきたか、どんなところを不安に思っているかということ率直に伝えてもらえると、そこをどうカバーできるかを、こちらが考えることができます。

阿部 徳持でも、行けるケースに同行してもらっています。研修生を受け入れた経験が少ないのですが、できるだけお話を聞いてそれぞれの方ごとに配慮するようにしています。

待っている方がいるから

須釜 1日の活動はかなりハードですか。

井上 電動自転車坂道も楽に動けるようにしています。でも、1日4〜5件動くこともあるので体力は必要ですね。あとは、大雨でも雪が降っても、待っている方がいますので、行かなければならないところがあります。

須釜 そういう話は研修生に率直にされますか。
井上 はい、仕事を始めようと思つて来られている方なので、現実を見てもらうのがいいと思つていま



●施設の紹介

にしき

訪問看護ステーション

多摩地区で医療活動を展開する社会医療法人財団健全会が運営。同系列には8つの訪問看護ステーションのほか、立川相互病院をはじめとした2病院、11診療所、2歯科診療所、2地域包括センター（委託）があります。

にしき訪問看護ステーションは1994年の開設。立川相互病院



阿部所長

す。研修生の方からもよく「台風のときや大雪のときはどうするのですか」と聞かれますが、「普通に合羽を着て出勤しますよ」と言います。驚かれる方もいますが、待つていらつしやる患者さん、利用者さんがいるからこそスタッフは動けるので、遅れても行くというところはありますね。

雨の日はみんな合羽に長靴で、見た目はキャディーさんです。(笑)

須釜 その話を聞いたとき、研修生はどんな反応をするのでしょうか。

井上 そーっと引く感じはありますね。(笑)

阿部 雨・風・雪は確かに大変です。スタッフの安全も考えなくてはならないのですが、たとえば、既婚者の方でしたら、ご主人が仕事で「今日は雪だから顧客のところに行かない」というのはありえない話で、それと同じだと思います。

須釜 そうですね。そういう時こそ、利用者さんにとつて訪問が待ち遠しいですね。

就業時間は個々状況に合わせた契約で

須釜 研修生からの質問としては、就業時間についてのことも多いのではないですか。

井上 にしきの出勤時間は8時45分ですが、小さいお子さんがいるスタッフは、自宅から保育園に預けてステーションというコースが多いので、保育園が遠いと通常出勤が難しいことがあります。いまは1人を9時出勤にしています。終わる時間については、子どもと触れ合う時間も必要ですので、子育て中の非常勤のスタッフに関しては15時あるいは16時など、それぞれの状況に合わせて契約内容にしています。



須釜所長

阿部 徳持では、いまのところ24時間体制をとっています。お子さんが保育園、幼稚園、あるいは小学校に入ったあた

りに復帰する方が多く、「お迎え」があるので、「終わる時間は何時ですか」という質問が多いです。意外に帰宅時間に影響するのが訪問後の事務処理、パソコン入力です。「今日でなくてもいいものは、月末のレポート報告までに」と、融通が利くようにしています。利用者さんの急な入院等で時間が空くこともありますので、時間をうまく使って処理してもらいます。帰りが遅くなると、お子さんもかわいそうですし。

井上 サービスの担当者会議も午後遅めの時間帯のものには代理で出ることが多いです。

須釜 うまくやりくりして、ということですね。お三方とも、一人ひとりの状況に合わせてサポートしていきたいと思いますね。

慣れていく過程をいかにフォローできるか

須釜 新人スタッフが入ってきたときは、どんな対応をされていますか。

井上 道順やケアの内容を覚えるまで時間がかかりますので、1カ月は先輩スタッフと同行訪問してもらいます。加えて、1週間目、2週間目で面談して、不安がないかチェックします。そして、2カ月目は、行けるケースは1人で行ってもらいます。が、慣れていく過程をいかにフォローできるかだと思っています。

阿部 徳持でも最低半月ぐらいは同行しています。が、あとは経験や能力によってそれぞれ配慮して決めています。

須釜 訪問するときの心構えとして、指導していることはありますか。

井上 笑顔で元氣よく挨拶すること、靴は揃えること、身だしなみを整えること、下から上に見られることが多いので、ズボンや靴下にも気を配ることなどです。「元氣よく行かないと元氣をあげられないし、元氣をもらえないので」ということは言っています。患者さんや利用者さんのほうがよくわかっていて、逆に緊張をほぐしてくださるようなこともあります。

阿部 病院とは違って、きれいな環境・ケースばか

りではないということも心構えとしては必要かもしれません。最初からいきなりそういうケースですと、在宅は無理だと思ってしまう方もいるかもしれませんので、少しずつ慣れていただいています。でも、在宅を担う看護師としては、いろいろなケースを経験することで成長できると思います。細々とした経験が積み重なって、ほかの患者さんのために活かすことができ、自分自身の経験としても役立ちます。

須釜 病院の看護と訪問看護の大きな違いはどのへんにありますか。

井上 訪問看護には、その方のためだけに使える時間があることだと思います。限られた時間ですが、その中で、患者さんやご家族がどんなふうにごしたいか、どう生きていきたいのかを支える一助になるということです。在宅では「もう薬はいい」あるいは「そのケアは要らない」と、自分を出してこられます。それに寄り添いながら、看護師として本当に必要なことを提案して、話し合いながらケアできることです。利用者さんの思いをいかに引き出せるか、そして、それにいかに寄り添えるかだと思っています。

阿部 入院は一時のことですが、訪問看護はその方の生活とともにあります。私も大学病院での看護を経験していますが、訪問看護こそが本来の看護だと思っています。病院の看護のように、看護側の目標を掲げてベストな状態で退院できるようにするというふうにはできないところがありますので、病院しか経験していない方はジレンマを感じるかもしれません。病院では、極端なことを言えば病院のルールを守らなかつたりすると退院していただく場合もありますが、在宅の場合は逆に、利用者

に至近の立川市錦町にあります。同院退院患者の受け入れが集中することがありますが、ご相談にいつでも応じられるよう努力しています。スキルアップのための学習や研修の体制も整っています。

徳持 訪問看護ステーション

地域包括センター、訪問看護、居宅支援が体となった地域トータルケアサービスを提供する医療法人社団仁和会が1996年に開設。所在地は大田区池上で、同法人が開設したあけりーく（内科・消化器内科・心療内科）の2階にあります。

大田区は23区の中で最も広く、蒲田などの工業地域と田園調布などの住宅地域の二つの顔をあわせ持っています。区内の34ステーションは、月1回の管理責任者連絡会によって緊密に連携し合っており、地域をカバーしています。



さんに「来なくて結構です」と言われたらそこまでは。ご本人が「そのケアはいらない」とおっしゃっても、私たちが引くことで、患者さんの健康状態が悪化することが確実という場合もあります。本人の選択と言えはそれまでですが、自分の中で、看護師としてのせめぎ合いがあるケースもあります。

須釜 「こうすべき」と、看護側の考えを押し付けるのはNGだけれども、ということですね。

井上 そうですね。でも、本当に必要なケアの提案は、簡単には諦めずに提案し続ける粘り強さも必要です。訪問看護師は一人で動いているけれども、一人ではないということも、訪問看護のやりがいだと思います。にきでは、お昼にスタッフがステーションに帰って来ますが、みんなが一つのケースについて、「ああやつたらどう?」「こうやってみたら?」とアイデアを出し合っています。それで、担当制でも一人で悩まないで済むのですね。一つ投げかけると、みんなが10ぐらいアイデアを出してくれます。

阿部 徳持でも、担当制を取っています。患者さんがどのぐらい良くなるか、あるいは維持できるかということも含めて、担当看護師の裁量にかかる部分が大きくなりますが、それがやりがいにもつながると思っています。

井上 病院では「はい、わかりました」と受け入れるだけなので、そこは大きなやりがいにつながると思います。ですから、常勤・非常勤の区別なく、担当は持つてもらおうにしています。

家庭での人生経験を活かして

須釜 患者さんやご家族に寄り添うためには、お話をしっかりと聞いて、考えを引き出せることが大事ですね。

井上 そう思います。ご家族との関わりもさまざま、たとえば、ある患者さんの奥さんは、お嫁さんの言うことは聞かないけれども、私たちの言うことは聞いてくれるという場合があります。そう

いうときは、「私たちを使ってください」と提案します。その逆のこともありますし、ケースごとにみんな違ってきますから、たくさんの方が経験できると思います。

阿部 これまで一緒にやってきたスタッフは、ほとんどが既婚者でしたので、そういったことにも慣れている人が多かったのです。嫁姑問題などもある程度わかっている必要はないところがあつて、お嫁さんの話、お姑さんの話を聞いて、「そうですね」と寄り添える人生経験は重要です。

須釜 離職期間が長くても、主婦として家庭で培った経験は大いに役立つということですね。

阿部 そう思います。

井上 小児の在宅看護も増えてきていますので、子育ての経験があることも有利ですね。

須釜 その経験は是非活かしていただきたいですね。

興味をもったら勇気を出して研修へ

須釜 最後に、復帰先として訪問看護に関心が

あるという方にアドバイスをお願いします。

阿部 訪問看護は24時間対応だから、とても無理だとはじめから諦めている方もいるようですが、そうでないステーションもありますし、24時間の常勤でも、必ずしもオン

コールの携帯を持たなければならぬわけでは
ありません。まずそれを知って
いただきたいと思います。私の同級生
でも、長いブランクから訪問看護師として復帰
した人がいます。自分に合った働き方が必ずあ
りますので、興味をもったら勇気を出して、ナ
ースプラザを利用して研修に来ていただいたら
いいと思います。

須釜 ありがとうございます。井上さんはいかが
でしょうか。

井上 スタッフに今回の鼎談の話をしたところ、
「たいへんなケースもあるけれども、仕事は楽しい
ということをアピールしてきて」と言われました。
難しさもあるけれども、訪問看護には、患者さん
やご家族と共有できる場、看護師間の共有がたく
さんあります。そこが看護展開に結びついて、やり
がいにつながります。ぜひ勇気を出して一歩踏み込
んで、研修に来ていただけたらと思います。

須釜 在宅を希望する方は多いのに、訪問看護師
はまだまだ足りません。まず、研修を通じて訪問
看護の魅力を知っていただき、それが、一人でも多
くの方の復帰につながればと思います。
今後ともご協力をよろしくお願いいたします。
本日はありがとうございました。



左から:
井上所長、須釜所長、阿部所長



看護職の就職応援フェア

「看護職の就職応援フェア」が、3月と5月の2回にわたり開催されました。このフェアは、就職を希望する看護職および看護学生の方と求人施設の方に、自由に意見交換していただく場として開催されています。新しい取り組みと近日での2回開催を実行しました。

●日時●
3月15日(土) 10:30~16:30

●会場●
新宿エルタワー
サンスカイルーム
(30階・1階)

春というにはやや肌寒いながら好天に恵まれた1日でした。今回初の取り組みとして、30階会場奥のコーナーでは、午前には人体模型を使った採血とAEDの体験実習、午後からは国試対策の「解剖生理学・基礎マスター講座」が開催されました。どちらも予約制で満員の盛況ぶりでした。

上記コーナー開催の影響もあってか、午前はお子さま連れ・中高年の参加者が多く、午後は看護学校卒業直後の方や20代の若い参加者が目立つという傾向がみられました。109法人が出展し、参加者は延べ400人を超え、大盛況の開催となりました。



会場内の様子。受付を済ませ資料コーナーで面談先を検討中



AEDの体験実習。「今まで、触ってみる機会がなかったのよね」



施設の方と面談中。気になることはどんどん聞いてみましょう。



採血のデモに見入る参加者の中に、小さな未来の看護師さん



国試対策「解剖生理学・基礎マスター講座」。記憶のコツなども伝授

この日、東京では今年初めての真夏日を記録しました。とても暑い1日でしたが、会場の都庁に入れば快適です。会場は広く、AEDの体験実習も開催されました。60法人が出展し、参加者は延べ146人でした。

●日時●
5月31日(土) 10:30~16:30

●会場●
都庁第一本庁舎5階
大会議室



「就職個別相談コーナー」。頼りになる相談員が相談を受けています。



広い会場のそこそこで面談中。左手前は「アンケート記入コーナー」です。

平成26年度
ふれあい
ナースバンク

再就職
相談会
今後の
開催予定

- 9月11日(木) ナースバンク立川
- 9月19日(金) ナースバンク東京
- 11月13日(木) ナースバンク立川
- 11月21日(金) ナースバンク東京
- 2月13日(金) ナースバンク東京
- 2月19日(木) ナースバンク立川

つれづれ……

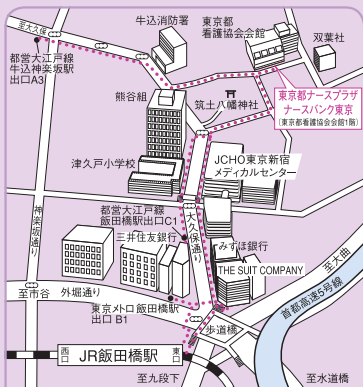
「敬老の日」の始まりは1947年に兵庫県多可郡野間谷村の村長と助役が提唱した「としよりの日」だそう、その後「老人の日」を経て、66年に国民の祝日「敬老の日」となりました。目的は、①国民の間に老人の福祉への関心と理解を深める、②老人が自らの生活の向上に努める意欲を促すとなっています。日本の65歳以上人口が4人に1人となった現在、この祝日の目的を再度念頭に置きたいと思います。

「医療介護総合確保推進法」の可決に伴い、今後、医療法や介護保険法、保助看法などの法律が改正されます。また、来年10月には看護職免許保持者届出制が導入されます。社会・医療の大きな変化の中で、看護職の必要性はさらに増していきます。資格を活かして、自分に合った職場で楽しく力を発揮してみませんか。(N・S)

●都内で15番目に多い街路樹● サルスベリ類

表紙イラストの「サルスベリ」はこんな木です。

サルスベリは中国南部原産の落葉小高木で、日本の夏の代表的な花木です。花はその年に伸びた枝に先端から咲き始めますが、花期が長く10月頃まで咲き続けることから、「百日紅」とも書きます。花色は紅色だけでなく、ピンク・紫・白とバラエティに富みます。渡来は文献記載のある江戸時代初期とするのが通説ですが、4年ほど前、平等院鳳凰堂の阿字池を土壌調査したところ、平安時代中期頃の地層から花粉が見つかりました。通説より600年ほど遡る可能性があるそうです。平安貴族も炎天下に揺れるサルスベリの花を見たのでしょうか。ちなみに、実際にサルを登らせてみても、滑り落ちるようなことはないそう。



ナースバンク東京 TEL03-3359-3388



ナースバンク立川 TEL042-529-7077

ACCESS

ナースバンク東京

- JR中央・総武線
飯田橋駅東口から徒歩7分
- 東京メトロ東西線・有楽町線・南北線
飯田橋駅 出口B1から徒歩6分
- 都営大江戸線
飯田橋駅 出口C1から徒歩5分
- 都営大江戸線
牛込神楽坂駅 出口A3から徒歩5分

ナースバンク立川

- JR中央線・青梅線・南武線
立川駅南口から徒歩10分
- 多摩都市モノレール線
立川南駅から徒歩8分

「看護職の就職応援フェア」 ●参加者アンケートより●

2014年5月31日(土)「看護職の就職応援フェア」が都庁で開催されました(p.7参照)。参加者は、社会人118人、学生28人の計146人(延べ)、会場で行ったアンケートに回答いただいた方は119人でした。

参加したいと思った一番の理由としては「相談したい施設があったので」が多く、参加者が、就職先として興味をもった施設の動向に、常に注意を向けていることがうかがわれました。

「応援フェア」や「ふれあいナースバンク」に出展される施設の方は、ぜひHPに参加のお知らせを掲載ください。

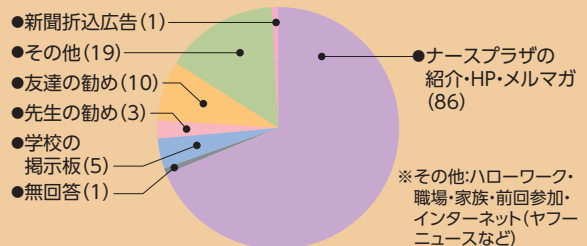
社会人参加者の職種内訳



(計118名)

※その他:介護福祉士

「就職応援フェア」は何で知りましたか(複数回答可)



※その他:ハローワーク・職場・家族・前回参加・インターネット(ヤフーニュースなど)

「参加したい」と思った一番の理由は

- 相談したい施設があったので
- 多くの病院が集まっているので一度に話が聞けると思った
- 近くの施設があったので
- 離職期間が長いので、どんな職につけるか相談したかった
- 転職を考えているので
- 職場の具体的な雰囲気やわかったと思ったので
- 面接というかたちでなく、気になる施設に勤務時間や内容などを気軽に聞けると思ったので

参加して良かった点は

- 職場の様子がよくわかり好感が持てた
- ゆっくり話を聞くことができ、職場がイメージができた
- ふだん実践する機会がないので、AEDの実技はよかった
- 業務内容や採用条件までくわしく教えていただいた
- 会場が都庁だったので迷わず来ることができた
- 直接希望施設に面接へ行く前にワンクッションおいて気軽に話ができる環境が提供されていてよいと思った

東京都ナースプラザ

検索

●ホームページ:<https://www.np-tokyo.jp/>
●Eメール:np@np-tokyo.jp